

園長だより 「架け橋」 NO.5

2園期が始まりました。「夏期保育」の続きという気持ちで元気に登園してくれることと思います。さて2園期は、運動会を始め、遠足やお遊戯会、クリスマス会、芋掘りなど、様々な行事があります。次から次へという感じもしますが、これらの行事や活動を通して子ども達は、大きく成長してくれることと思います。お家でも子ども達の話に耳を傾け、心で受けとめてあげてください。きっと子ども達に自尊感情と向上心が育つと思います。ご協力の程、よろしくお願いたします。

大切な体験！

真っ黒に日焼けした子ども達の顔には一段とたくましさを感じます。

しかし、夏の暑さとたたかった幼い身体の疲労を見逃すことはできません。秋口に体調を崩す子どもが多く出るのは、このことが原因しているように思います。そのため、十分な休養と栄養が必要になります。また一方、自由な家庭環境の中で生活した気分から脱皮できず、気持ちが不安定になっている子どもも少なくありません。幼稚園では、そのような子どもの状況も考えて「夏期保育」を実施しました。おかげさまで、元気一杯な運動や遊びを展開してくれました。ご家庭でも、時には厳しく、時には優しくしながらも、一貫した姿勢で子ども達に接して



いただきたいと思います。



幼児期には思いやりがあり優しい子であったのに、思春期に達すると「何をしてよいのか分からない！」とか、「目的が持てない！」と悩む子どもが多くなるという話を聞いたことがあります。幼児期に読み・書きなどの基礎的な「力」を身に付けさせることは大切ですが、他人にはない、その子の「自分らしさ」を身に付けさせることも必要だと思います。のびのびと絵や作文をかいたり、芸術やスポーツで幅広く表現させたりすることによって、「できた！」とか「分かった！」という体験をすることが重要だと思います。また、その体験

に親や大人の評価が伴えば、子ども達の喜びと自信はますます増幅します。2園期は、教育活動が最も充実する期間です。秋の気配が感じられ中、多くの体験を大切にしたいと思います。

飛びついてきた子ども！

幼児教育者・倉橋惣三の詩を紹介
します。

子どもが飛びついてきた。あっと思う間に何処かへ駆けて行ってしまった。その子の親しみを気の付いた時には、もう向こうを向いている。私は果たしてあの飛びついてきた瞬間の心を、その時ぴったりと受けてやったであろうか。それに相当する親しみで応じてやったろうか。

後でやっと気が付いて、のこのこ出かけて行って、先刻はと言ったところで、活きた時機は逸し去っている。埋め合わせのつもりで、親しさを押しつけていくと、しつこいといったような顔をして逃げていったりする。

時は、さっきのあの時であったのである。

いつ飛びついてくるか分からない子ども達である。(倉橋惣三 一育ての心より一)

何か、子ども達と接応する時の基本が語られているように思います。「今・ここで」の子育てを感じ取りたいものです。

